



新年のご挨拶

院長	2
副院長	4
統括診療部長	5
事務部長	6
看護部長	7
薬剤部長	8
職場紹介 外科	9
連携医療機関のご紹介	10
キャンドルサービス	12
人事異動	13
外来診察医担当表	14



山里の初日の出

2022年 新年の挨拶



院長
奈須伸吉

明けましておめでとうございます。昨年末から日本列島に寒波が押し寄せ、暖かい大在には珍しく12月に初雪が舞い、年末年始も寒かったですが、みなさま体調はいかがでしょう。

新年です。小さな喜びを見つけながら歩いてゆきましょう。

今年の十二支は寅年で、春が来て植物の根や茎が成長し、草木が伸び始める年だそうです。去年は広報誌新春号で、丑年は耐えながら芽が出る前触れの年と紹介しましたが、この一年を振り返りますと、新型コロナウイルスパンデミックは続いています。年初に予想したよりも早く、あちこちに新芽🌱が出始めた年になりました。具体的には、

- 🌱 うち（大分医療センター）の感染対策（標準予防策）はかなり定着してきました。
- 🌱 医療従事者に3回目のワクチン接種が行われ、内服治療薬の使用も始まります。
- 🌱 経営面では経常収支が改善して、老朽化した医療機器の一部が更新できました。
- 🌱 大分東懇話会はハイブリッド形式で定期開催され、うちの病診連携が現在も維持できていることを確認しました。
- 🌱 NHK 大分放送の特番でうちのコロナ対策が放映されました。
- 🌱 ほとんどの病院行事が中止になる中で、唯一ささやかなキャンドルサービスができました。

🌱 何よりも嬉しかったことは、職員にはコロナ対策の行動制限がありますが、院内感染の無い平穏な年末年始を迎えられたことです。

パンデミックは発生から5～10年で終息すると予想されています。あと2年以上続くことになるかもしれませんが、その間一つも事態が変わらないのではなく、ウイルスは徐々に人間社会と共生する道を選び、その存在が薄れてゆくでしょう。

みなさん、日々小さな喜びを見つけて感謝し、希望の火を灯しながら歩みましょう。

去年は、みなさんご苦労様でした

去年は、職員のみなさんの努力と辛抱、患者さんのご協力、関係機関のご支援のお陰で、まず2月に院内クラスターが収束しました。その後、1個病棟を新型コロナ患者専用、3個病棟を急性期用、1個病棟は包括ケア病棟と、変則的病床運用を1年間続けました。1-2月に第3波、4-6月に第4波、8-10月に第5波が押し寄せましたが、入院患者受け入れ病院がまだ少なかった第4波の途中までは軽症・中等症受け入れ、第4波後半から重症受け入れに変わり、大分県の中心的病院の一つとして多数の感染患者の治療を行いました。同時に、救急医療と一般医療も続けましたが、うちはほぼ1年1人もコロナ感染者は出ていません。

今後も、自信を持って感染対策と診療を続けて良いと思います。

幸せの青い鳥は足元にいます

新型コロナウイルスは人の心にも感染して人々の分断を招くウイルスです。2020年には院内のあちこちで分断の音が聞こえました。そこで、2021年度の病院目標を決める時に、「共同体の一員として、互いに尊重し合い、思いやる姿勢を持つ。」ことが医療従事者の基本であり最も重要なことだと考え、目標の一番にしました。互いに相手を尊重し、相手の気持ちになって発言し行動してください。しかし、言うは易し行は難しで、この困難な時期に直ちに達成することは難しいので、私の在職中はこの目標を継続し、徐々に理想の共同体に近づければ良いと思っています。平穏な時代よりもみなさんには身体的・精神的負担が多く掛かりますので、少しでも心に余裕を持てるように気分転換しながら働いてください。一人一人が掛け替えのない仲間です。もし心が落ちつかない事が有っても、感情の赴くまま行動せずに、自己を客観的に観察して、分断の魔の手に惑わされないことが大切です。

今、私たちが住んでいる日本は、安定とはほど遠い逆境の時代にあると思います。しかしみなさん、私たちは縁有って大分医療センターという共同体の一員になったわけです。悲観的にならずに前を向き、時には立ち止まってお茶でも飲みながら一緒に知恵を出し合いましょう。

幸せの青い鳥は遠くに捜しに行けば見つかるものではありません。きっとみなさんの足元に青い鳥がいると思います。青い鳥を見つけて大切に育ててください。

この時代に医療現場で働くということ

「医療のプロフェッショナルとしての意識を強く持ち」ましょう。みなさんが一生懸命標準予防策を身に着けた様に、技術やルールを習得するためには“強い意志と反復”が大切で、苦勞して覚えたことはしっかりと身に付いて自然と行動に表れます。また、年長者は知恵と技術とルールを後輩に伝えて、若い人の成長を支えてあげてください。人と人との繋がりを大切に、次の世代に少しずつ松明を手渡し、うちの歴史を作ってください。

この時代に生き、一世紀に一度のウイルスパンデミックに遭遇したことは不遇ではありません。みなさんの仕事は必ず誰かの役に立ち、他者に貢献できますので、幸せなことだと思ってください。

今年は、近い将来に訪れる「コロナパンデミック終息後の時代」に向けて準備する重要な年になります。もし、つらいことや悪いことが有っても「その時代」はみなさんを待っていますので、焦らずに、目の前のことを一つずつこなしてゆくことが「その時代」への近道になると思います。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

2022年正月

新年のご挨拶



副院長
中村雄介

年はじめのことですが、古くは「年立ち返る」という言葉がありました。それは年は再び帰ってくるということで、新年を迎えることを意味します。明治5年に太陽暦が実施されるまで、太陰暦の新年と春は一致しており、「新春」、「初春」も正月を祝う言葉にふさわしいものでした（太陽暦での2月頃に相当します）。太陽暦の正月は、まだ寒い冬期ですよ。最初に人が季節を知る手がかりとしたのは、星の位置や月の満ち欠けでした。「太陰暦」は29日または30日からなる「月の満ち欠け」を12回繰り返して「一年」としますので、一年は約354日となり、太陽暦の一年に比べて約11日短く、3年ごとに約1か月ずれていきます。このずれを放っておくと暦が季節と大きく食い違うこととなります。そこで太陽の運行を参考にしつつ「閏月」（うるうづき）という「月」を挿入し、1年を13か月にすることで暦と季節のずれを正す方法が図られました。これが「太陰太陽暦」です。「太陰暦」をはじめて用いたのは、古代シュメールやバビロニアでしたが、暦と季節のずれに対し、適当に日や閏月を足して済ませていたようです。暦を知ることは、季節を知ること、そして季節は生活です。暦と季節のずれを補正するために、さらなる手がかりが必要です。一定の場所で星の位置、見える時期、太陽の観察も季節の変わり目を知る手がかりです。夏は日が長く、冬は日が

短いですが、一年のうちで最も日の長いのはいつか、最も日の短いのはいつかといったこと（「夏至」、「冬至」、昼と夜の時間が同じになる頃を調べました（「春分」、「秋分」）。太陽と星の観測はやがて「二十四節気」を生み出し、明治まで太陰太陽暦に併用され、暦と季節を一致させるヒントになりました。日本では、江戸時代初期までは中国から輸入した暦を使っており、作成された時代や場所が異なるため、年とともにズレは大きくなっていました。初めて国産暦法を作成したのは、渋川春海（「天地明察」という漫画や映画で有名？）です。これ以後も、時間と季節（太陽からの距離）を一致させるために多くの暦が作られます。杵築藩からも、麻田剛立（月のクレーターにAsadaの名前があります）という知る人ぞ知る暦学者が輩出されています。地球は一年かけて太陽の周りを一周するのですが、太陽自体も動いていますので、決して同じ場所に返ってくることはありません。年のはじめを表す言葉は「立ち返る」年ではなく、ポストコロナやウィズコロナの時代を迎える、新しい、飛躍の年となる「新年」や、緊張感を持ち、身を正す月という「正月」のほうが、私達にはふさわしいかなと思います。本年も、なにかとご指導・ご鞭撻のほど、よろしくおねがいたします。

新年のご挨拶



統括診療部長
椛島 章

明けましておめでとうございます。

昨年の年末年始はコロナ感染症の非常事態宣言・蔓延防止宣言とかぶり、緊張感の中で過ごされたことと推察いたします。今年は心安らかに過ごされ、ソーシャルディスタンスを保ちつつも親しい方々と集うことが出来たら幸いと思います。

昨年は、令和2年のコロナ感染クラスターの影響ならびに度重なるコロナ感染流行に対する対応のため、診療制限の必要があり、皆さんには御心配・御不便をおかけしました。誠にすみませんでした。

確かに昨年はコロナを中心にした診療状況でしたが、時期時期で診療方針や重点事項に変化がありました。冬から春にかけては、院内感染防止の見直しと徹底に重点を置きました。ICTが中心となり、院内にコロナを侵入させないための水際対策を強化することに加えて、感染を蔓延させないためのスタッフ教育・啓蒙にも力を入れました。春から夏にかけては、行政からの強い要請に応じる形で、当院でも中等症から重症のコロナ患者の治療を開始しました。1病棟をコロナの専用病棟といたしました。そのため必然的に病院の可動病床は減少しました。また、呼吸器内科医師にはコロナ患者を優先的に診療してもらう必要がありました。そのため、コロナ以外の疾患の診療・紹介・救急受け入れに制限をかける必要が発生し、地域の患者

さんや連携病院の方々には大変な御不便をおかけした時期でした。秋から冬にかけてはコロナ第5波も収束に伴い、当院の本来の必要性や立ち位置を考慮し、一般診療・救急にも力を再投入することといたしました。12月からは紹介・救急受け入れの量的制限も解除できるようになりました。

今年も引き続きウィズコロナを目指した診療を確立していきたいと思います。コロナの第6波に備えて(もしかしたらこの文章が刊行されるころには波が来ているかもしれませんが)、コロナの病床・診療体制の確保は欠かせないと思います。その一方で、コロナ以外の疾患・急患に対しても、地域診療に根差した極力断らない診療も維持していかなければならないと思います。

皆さんご存知かと思いますが、今年の干支は、「寅」です。陰陽五行説からいうと、今年の「寅」は、「壬寅(みずのえとら)」だそうです。「壬寅」は、「陽気を孕み、春の胎動を助く」、冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれることを表しているとのこと。「コロナ」の厳しい冬もいつかは終わり、春が訪れるはずです。それを信じて陽気・生命力を蓄えていきたいと思います。

今年も何卒よろしく願いいたします。

2022年 新年のご挨拶



事務部長
秋好輝雪

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。

世界中がコロナ禍になって約2年が経ちました。当院にとっても、日常生活においても、あまりにも変化の大きかったこの2年あまり…昨年の11月頃からコロナの感染拡大もようやく落ち着きをみせ、2年ぶりに静かなお正月を迎えられた方も多いことと思います。しかし医療従事者である職員の皆様にとりましては、いずれは来るであろうコロナ第6波に備え、本当の意味で心の休まる日々は、まだないのではないのでしょうか。

コロナという未知のウイルスに対する国の対策もこれまで2転3転してきました。ワクチンが出来ても、度々変異するウイルスに対して、その効果も科学的に実証されるまでには至っていません。年が明けても、コロナ感染対策においては何が正解なのかまだまだ分からない現状ではありますが、少しずつ日常の経済活動も活発になってきています。私達に出来ることは、これまでどおりマスクの着用や手指消毒など通常の感染対策を徹底し継続することではないかと思ひます。「継続は力なり」と言われます。弛まず挫けず続けていくことの大切さ、個々の成果は微々たるものであつ

ても地道に続けていけば、やがて大きな成果を達成できると思ひています。

当院の運営におきましては、コロナの感染状況に大きく左右されながらも、コロナ患者受け入れの重点医療機関として、その使命をしっかりと果たしつつ、一方では地域の拠点病院として、一般患者についても限られた病床の中で出来る限りの受け入れを行ってきています。これもひとえに職員皆様のご理解とご協力の賜物であり、改めて感謝申し上げます。

コロナ禍にあつて一つ気づかされたことがあります。これまで政府が取り組んできた数々のコロナ対策。何が良くて何がダメなのか細かいことはさて置き、明らかに間違っているのではと国民の誰もが批判したこともありました。しかし政府のメンツなのか何かは分かりませんが、それを気づいていながら改めない。そして更に批判を深めていく…そんな対応を目の当たりにして、間違いは間違いとして素直に向き合い、改めるべきことはスピード感をもって対処する、そういう自分でありたいと新年に誓つたところです。「過ちて改めざる、これを過ちという」(論語より)

新年明けまして おめでとうございます

看護部長
佐々木 容子



新しい年を迎えました。2021年は新型コロナウイルス感染症が引き続き猛威をふるい、医療崩壊も叫ばれた1年となりました。ワクチン接種が進められ、10月以降国内での感染は縮小しましたが、ブレイクスルー感染や変異株ウイルスの出現もあり、残念ながら新型コロナウイルス感染症は終息することなく、2022年となりました。今年はどうような年になるのでしょうか。

当院は昨年も新型コロナウイルス感染症の重点医療機関として、患者さんの受入れを行ってきました。受入れ病床を確保することは、一般患者さんの入院にも大きく影響があります。限られた病床の中で、地域における当院の役割が果たせるよう、病棟間で連携、調整しながら入院を受入れ、新型コロナウイルス感染症の患者さんに直接対応する看護師も、一般患者さんに対応する看護師も、寄り添う看護を実践しようと頑張ってくれました。今年も院内の各職種が連携、協力することで、患者さんやご家族が望む医療や看護に少しでも近づけて提供することができればと思っています。また、訪問看護ステーションについては、昨年は地域からの依頼も増え、最近では月の訪問件数が200件を超えています。スタッフのこれまでの努力が、地

域の方々の信頼に繋がった結果だと思っています。

今年の干支は「壬寅（みずのえとら）」です。「新しく立ち上がること」や「成長すること」といった縁起の良さを表しているそうです。看護部では教育内容を見直すとともに、昨年導入したeラーニング等を活用しながらケアの質を高めていけるよう取り組んでいきたいと思っています。そして、患者さんの価値観や生活を尊重し、安心できる、継続した医療、看護が提供できるように、職員一同力を合わせて進んでいきたいと思っています。

1日も早く明るい話題を共有できるような年になることを願っています。本年もどうぞよろしく願い致します。

新年のご挨拶



薬剤部長
竹添 達也

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの完全なる終息がまだまだ見えない中、本年が皆様にとって希望の持てる年となることをお祈りいたします。

このコロナ禍において、新しい生活様式の一つとなった「マスクの着用」。マスクを着用しながらのコミュニケーションは単純に声がこもって聞こえづらいという難点もありますが、実はそれだけではなくマスクを着用することによって、顔の大半が隠れてしまい相手の口の動きおよび表情が読みとれず、すれ違いが起きやすいという大きな課題があるとのことでした。

実際、私も昨年4月に赴任して以来薬剤部内で毎日部員と顔を合わせていても、お昼休みの食事時、マスクを外した場面にあらためて遭遇した時に、「この人ってこんな顔だったんだ。」と少しばかり驚きを感じることもありました。

職場では多様な価値観を持った人々が集まり、お互いに理解し合い協力しながら同じ目的に向かって行動しなければなりません。

薬剤部内だけでなく、他職種の方々ともスムーズに業務を進めるためには、職員どうしで密接にコミュニケーションを取り、人間関係を深める必要があります。

しかし、コミュニケーションが日常的に不足してしまうと、じっくり話し合う機会がないために指示の意図が分かりづらくなってしまったり、職員どうしの情報共有ができないために業務が進めにくいなどの問題が生じてしまいます。

また、同じ空間で働いていれば、相手が忙しそうなのか余裕があるのかを目で見て確認できますが、それも難しくなり結果ストレスが増加しがちになってしまいます。

こんな時代だからこそ、十分に感染管理を行いながらも、様々なツール等を利用しコミュニケーションを活性化し情報共有を行っていくことで、無駄な動きが減り、業務が効率化し、意見交換を重ねることで視野を広げ、職員どうしが自然にスキルを高め合うことにつながると思います。

大分医療センターの病院目標のひとつに「共同体の一員として、互いに尊重し合い思いやる姿勢を持つ」と掲げられています。

昨年は薬剤部では欠員もあり各方面にご迷惑をおかけすることもありましたが新しい年を迎えるにあたって、この目標を達成するために何をすればいいのかを常に考えながら取り組んでいきたいと思っています。

外科

Surgery

統括診療部長
(外科部長)
梶島 章



昨年は、コロナ感染クラスターの影響ならびに度重なるコロナ感染流行に対する対応強化のため、一般診療に制限が強いられ、皆さんには大変な御心配・御不便をおかけしました。

このコロナ禍の中、院内感染対策を根本から見直し、院内にコロナを侵入させないための水際対策と感染を蔓延させないためのスタッフ教育・啓蒙に力を入れてきました。そして、コロナ第5波の収束に合わせて一般診療・救急にも力を再投入する事が可能となり、令和3年12月からは紹介・救急受け入れの量的制限も解除いたしました。このように病院の機能も回復してきました（感染対策に関してはレベルアップしたと自負しております）ので、改めて当外科を紹介させていただきたいと存じます。

当外科は、九州大学消化器・総合外科と大分大学消化器・小児外科のスタッフによる混成チームで、消化器疾患・乳腺疾患・一般外科疾患に対応しております。日本外科学会や日本消化器外科学会の専門研修施設として認定されており、それぞれの専門医や指導医が常勤しております。また、乳腺外科については大分大学呼吸器・乳腺外科より乳腺外科専門医が月に2回の乳腺外来を行っております。通常外来診療は月曜日から金曜日の午前中に行っております。緊急患者については休日・夜間を含め24時間オンコール体制で対応しております。また、平日日勤帯は当院外科・呼吸器外科医が救急隊ホットラインを携帯しており、救急

車への初期対応を担っております。

昨今の日本では男性の2人に1人が、女性の3人に1人が癌になると言われています。当外科でも癌治療は最も力を入れている分野です。消化器癌（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、膵臓癌、胆管癌など）と乳癌の外科手術を行っています。また、化学療法にも力を入れており、術後補助化学療法・術前化学療法・進行再発癌に対する化学療法を行っています。当院には、化学療法センターが設置されており、癌化学療法認定ナースによる充実した化学療法が行われています。放射線科と協力し放射線治療・放射線化学療法も行っております。以上より当外科では、癌に対して手術・薬物治療・放射線治療と集学的治療が可能です。

一方で、いわゆる良性消化器疾患に対する手術も力をいれており、代表的な疾患として胆石症・ソケイヘルニア・虫垂炎が挙げられます。また、緊急性の高い消化管穿孔、腸閉塞、胆嚢炎にも積極的に治療を行っています。

最近の低侵襲手術の推奨を受け、当院でも鏡視下手術に積極的に取り組んでおります。良性疾患に対してはさることながら、悪性疾患においても鏡視下手術を行っております。消化管の悪性疾患に対しては以前より行っておりますが、最近では肝胆膵領域の癌に対しても適応に応じて鏡視下手術を行っております。近年は、当科手術症例の約半数を鏡視下に行っております。

以上のように、少しでも皆さんの役にたてるよう精進いたしたいと存じます。何卒、よろしく願いたします。



連携医療機関のご紹介

よつばファミリークリニック

所在地	〒870-0126 大分市大字横尾1859番地	
TEL/FAX	097-520-8686 / 097-520-8688	
診療科目	内科・小児科 ※訪問診療	
病床数	なし	
診療時間	午前 月～土	9:00～12:30
	午後 月・火・水・金	14:30～18:00
休診日	日曜日・祝日・木曜日と土曜日の午後	



院長 藤谷 直明



「心やさしく頼りになるあなたと地域のかかりつけ」

当院は小児から高齢者まで幅広い年齢層を対象に、高血圧や糖尿病などの生活習慣病、気管支喘息や更年期障害などの慢性疾患、発熱や咳、関節痛、湿疹などの急性期疾患まで幅広く対応することで、かかりつけクリニックとして、地域で安心して暮らして頂くための一助となることを目標に診療しております。

また、外来だけでなく訪問診療も行うことで、通院が困難になっても住み慣れた地域で暮らすお手伝いをします。お気軽にご相談ください。



社会医療法人 関愛会 **大東よつば病院**

所在地	〒870-0125 大分市大字松岡1946番地
TEL/FAX	097-520-3555 / 097-520-3559
診療科目	内科・循環器内科・呼吸器内科・リハビリテーション科 ※訪問診療（機能強化型在宅療養支援病院）
病床数	40床（地域包括ケア病棟）
診療時間	午前 9:00~12:00 午後 13:30~17:30
休診日	土曜日・日曜日・祝日
併設事業	大東リハビリテーションセンターもみの木（通所リハ；定員40名）、大東よつば病院訪問リハビリテーション事業所、介護老人保健施設やすらぎ苑（定員50床）、在宅ケアサポートやすらぎ（居宅介護支援事業所）



院長 立川 洋一



当院は老健やすらぎ苑内に2021年2月1日に開設致しました。全床地域包括ケア病棟として急性期治療後のポストアキュート目的の入院、在宅医療を受けている患者様などのサブアキュート目的の入院、2つの機能を柱に病床を運用しています。また機能強化型在宅支援診療病院として訪問診療を提供します。関愛会の理念である「地域包括ケアの推進」を念頭に、近隣医療機関の先生方、介護事業所の皆様方等と連携し、併設事業の老健やすらぎ苑や通所リハ大東もみの木、訪問リハ含めスタッフ一丸となって地域に貢献致します。





昨年、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったキャンドルサービスを、今年度は奈須院長、中村副院長ほか、有志により開催致しました。

夕暮れ、クリスマスソングが流れるなか、キャンドルに明かりを灯したサンタクロースがゆっくりと歩みます。病棟では患者さんからの笑顔と温かい応援をいただき、こころ温まるひとときになりました。

(医療サービス・広報誌ホームページ委員会
森崎久美 萬代加代子 三浦久美子)



キャンドルサービス

2021.12.22 wed



人事異動

退職・転出等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考	発令事項	発令日	職名	氏名	備考
退職	R3.11.26	事務助手	阿孫 莉那		退職	R3.12.31	看護師	添田 風音	
退職	R3.11.30	業務技術員(看護助手)	中村 陽子		退職	R3.12.31	事務助手	堤 麻美	
退職	R3.12.31	看護師	野崎 里沙		退職	R3.12.31	ドクタークラーク	坂井奈緒美	

採用・転入等

発令事項	発令日	職名	氏名	備考	発令事項	発令日	職名	氏名	備考
採用	R3.12.1	看護師	広田ゆかり		採用	R4.1.1	ドクタークラーク	木村彩弥佳	
採用	R4.1.1	事務助手	大本 眞美						

基本理念

「愛の心・手」で
病める人々に寄りそう医療

基本方針

- 365日24時間断らない診療を目指します
- 大分県地域医療支援病院として、地域へ貢献します
- 大分県がん診療連携協力病院として、がん診療の充実に努めます
- 垣根を越えた連携によるチーム医療の充実に努めます
- 地域に根ざした積極的な広報活動と情報発信に努めます
- 安定した医療を提供するため、健全経営を志向します

大分医療センターのロゴマークについて

全体のコンセプト



Oita National Hospital (旧国立大分病院)の頭文字をロゴマークの形であらわしており、さらに「O」は病院の所在地である「大分市」及び「大在」の地名を示している。これを、海・空・太陽・緑の大地を立体的に示す色合いで表現したものである。

- 「緑と赤」…昇る朝日と緑豊かな大分の地を表す。
- 「青」……大分医療センターのシンボルカラーを示し、私達医療従事者を表す。
- 「黒」……地域と大分医療センターを結ぶ架け橋を表す。



表紙の写真や大分医療センターのなつかしい写真を募集します。
ぜひ編集委員へご提供ください！

編集委員

委員長 岡田 さおり

委員 秋好 輝雪 石川 秀利 森崎 久美 梅木 祐 村上 英恵 竹田津 雄介

外来診察医担当表

【令和4年1月1日現在】

■ 受付時間 8:30~11:00
 ■ 診察開始時間 8:30~

※予約の変更は月~金の各13:00~15:00にご連絡ください。
 (総合支援センター) ☎ 097-593-1112 fax 097-528-9651

【一般外来】 ※連携医療機関の方は8:30~17:15に総合支援センター(地域医療連携部門)へご連絡ください。

診療科	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
糖尿病・代謝・内分泌内科		佐田ころろ 野村 卓也(新患)	嶋崎 貴信 野村 卓也 佐田ころろ(新患)	嶋崎 貴信 佐田ころろ 野村 卓也(新患)	嶋崎 貴信 野村 卓也 佐田ころろ(新患)	嶋崎 貴信 佐田ころろ 野村 卓也(新患)
腎臓内科				竹野 貴志(予約制)		
膠原病内科				安倍いとみ(予約制)	梅木 達仁 (予約制 第1・第3・第5週)	
消化器内科 (肝センター)		半澤 誠人 山下 勉 大塚雄一郎	本田俊一郎 室 豊吉 山下 勉	濱野 朋恵 山下 勉 大塚雄一郎	水内 梨絵 本田俊一郎 山下 勉	大塚雄一郎 濱野 朋恵 半澤 誠人
循環器内科		有川 雅也 小野 慎平	有川 雅也 棚澤 晃大	吉村誠一郎 棚澤 晃大	吉村誠一郎 小野 慎平	有川 雅也 小野 慎平
心臓血管外科					和田 朋之(13:30~) まずは循環器内科に紹介ください	
呼吸器内科 (呼吸器センター)		大谷 哲史(新患) 宮崎幸太郎	大谷 哲史 平山 義明(新患)	山本 堯(新患) 宮崎幸太郎	大谷 哲史 宮崎幸太郎(新患)	大谷 哲史(新患) 山本 堯
血液内科						樋園 和仁 ※
※金曜日 受付時間 新患13:00~14:00/再来13:00~15:00 診療時間13:00~						
脳神経内科					日野 天佑 (13:00~17:00)	
外科		矢田 一宏 橋本 直隆 一万田充洋(第2・第4月曜)	梶島 章	矢田 一宏 一万田 充洋	橋本 直隆 笠木 勇太	梶島 章 渋田 祥平
乳腺外科		武内 秀也 ※	※第1・第3月曜日 受付時間10:00~12:00 診療時間10:00~13:00のみ			
呼吸器外科		(手術日)	高祖 英典	高祖 英典	(手術日)	高祖 英典
整形外科		田畑 知法 川岸 正周	田畑 知法 川岸 正周	(手術日)	田畑 知法 川岸 正周	金曜新患受付10時まで 田畑 知法 川岸 正周
泌尿器科		午前 河野 香織 住野 泰弘 奈須 伸吉	午前(10時まで) 河野 香織(新患) 住野 泰弘(新患) 山中 直行(新患)	午前 河野 香織 住野 泰弘 山中 直行	午前(10時まで) 中島 駿佑(新患) 住野(河野)(新患) 山中 直行(新患)	午前 河野 香織 山中 直行 奈須 伸吉
		新患担当は当科で振分けます。(紹介は「外来担当医」宛て)				
婦人科		岡田さおり	河邊 史子	岡田さおり(午前) 西田 欣広(午後) ※	岡田さおり	河邊 史子
		※水曜日午後 受付時間14:00~16:30 診療時間14:00~17:00				
放射線科		高橋 浩平	高木 勝弘(午前) 本村 有史(午後)	高橋 浩平	高木 勝弘(午前) 本村 有史(午後)	高橋 浩平
内視鏡 (胃腸センター)		本田俊一郎 水内 梨絵 濱野 朋恵	大塚雄一郎 半澤 誠人 水内 梨絵	本田俊一郎 半澤 誠人	大塚雄一郎 濱野 朋恵 平江 麻衣	山下 勉 水内 梨絵
内科系疾患で 専門診療科の判断が困難 な場合の担当科		消化器内科	糖尿病・代謝・ 内分泌内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科

【特殊外来のご案内】 ※完全予約制となっておりますので、下記にご連絡ください。

ひまん外来	毎週 金曜日 (祝日を除く)	診察時間 14:00~16:00	TEL 097-593-1111 (内線235)
ストーマ外来	毎週 金曜日 (祝日を除く)	診察時間 9:00~12:00	TEL 097-593-1111 (内線711)
緩和ケア外来	毎週 水曜日 (祝日を除く)	診察時間 11:00~12:00	TEL 097-593-1111 (内線739)
フットケア外来	第2・第4 火曜日 (祝日を除く)	診察時間 8:30~11:00	TEL 097-593-1111 (内線235)



地域医療支援病院 日本医療機能評価機構 認定病院

独立行政法人
国立病院機構

大分医療センター

<https://oita.hosp.go.jp>



〒870-0263 大分市横田2丁目11番45号 TEL097-593-1111 FAX097-593-3106 / 総合支援センター直通 TEL097-593-1112 FAX097-528-9651